

令和3年度 自己評価

ま と め

評価：とてもそう思う…4 そう思う…3 あまり思わない…2 思わない…1

|  | 項目   | 評価  | 表記のまとめ  |
|--|--|-----|---|
| 教育理念 / 学校教育目標  | 1 本校の教育理念「生きる喜びを抱き 自ら学びを拓く」を意識した教育活動を行っている。                                    | 3.1 | ○縦割りの活動は充実しており、リーダーの育成も適切に行われている。日常の課題解決を児童が中心となり、自治に発展させていけるとよい。<br>○自然にさらに興味をもたせ、自然物を使った遊びや自然物から何かを作り出すきっかけ作りがあるとよい。<br>○幼幼連携については、学園としての教育理念を再確認し、幼稚園から初等学校まで一貫した連携を図っていくことが必要である。   |
|  | 2 本校の学校教育目標「子どもが主体となる探究的・体験的な学びと自治の生活を通して、共に生きる社会を創り出す子どもを育てる」を意識した教育活動を行っている。 | 3.4 |   |
|  | 3 「縦割りグループによる自治」を意識した教育活動が行われ、リーダーの育成や子どもたちによる課題解決等を進めることができた。                 | 3.5 |   |
|  | 4 「テーマ学習」を意識した教育活動が行われ、教科や道徳、学活などをテーマに関連付けてより深いのある学習に結びつけることができた。              | 3.0 |   |
|  | 5 「自然体験活動」を意識した教育活動が行われ、「感じて、考えて、創り出す」という一連の営みの中で、自然と自分の生活を結び付けて考えさせることができた。   | 2.9 |   |
|  | 6 「幼稚園との連携」を意識した教育活動が行われ、園児との交流によってリーダー性や寛容性を養うことができた。                         | 3.1 |   |
| 教育課程   | 7 別紙「各教科等授業時数」を参照し、各教科等の授業時数は適切である。  | 2.9 | ○1・2年生の生活科が3年生以上の総合学習と重なって行われているが、生活科として学ぶべき内容を充実させるため、外国語の授業時数の一部を生活科に回すことを検討していきたい。<br>○学校行事は内容や計画を児童自身が考え決定することを重視していることから、多くの時間を要する。児童自身が創り出す側面を大事にする意味で、学校行事を精選し、しっかりと児童同士で協議し、達成感をより高めていく方向にシフトしていくことも必要と思われる。<br>○SDGsに基づいた年間テーマを決め、各テーマ学習に関連付けながら取り組み始めた点はよかったが、目標達成に向けた取り組みがなされたかという点では疑問が残る。目標達成に向けた具体的な行動を実生活でも意識して行うことや、ボランティア活動等社会貢献できる活動を行うことも今後検討していきたい。<br>○年間テーマは、必ずしもSDGsに基づいたものでなくても、児童の日常生活に密着したことから設定した方が切実感や臨場感をもてるのではないかと。<br>○幼幼連携の具体については、双方にとって無理なくメリットがあるミニ行事的 |
|  | 8 別紙「年間行事予定表」を参照し、学校行事については適切な時期に適切な目的・内容・回数(回数)で実施されている。                      | 3.3 |   |
|  | 9 テーマ学習のテーマは時期を捉えた適切なものであり、ねらいや内容、回数など、子どもの興味関心が継続するよう工夫されている。                 | 2.9 |   |
|  | 10 テーマ学習を軸として教科や道徳、学活などを関連付けた学習は、年度当初の計画に基づき効果的に実施されている。                       | 2.9 |   |
|  | 11 SDGs(持続可能な開発目標)に基づく年間テーマは各テーマ学習に有効に関連付けられ、SDGsの目標達成に向けた取り組みに結びついている。        | 2.6 |   |
|  | 12 幼幼連携に関わる教育活動を年間計画に位置付け、双方にメリットのある目標を掲げ、実施している。                              | 2.6 |   |
|  | 13 児童の実態に合った日課や時間割を編成しており、子どもの学びや遊び、休憩等に無理なく実施している。                            | 3.3 |   |
| 学校運営組織   | 14 学校教育目標達成に向けて、校長などの管理職がリーダーシップを発揮し、それに基づいて職員が一致団結して教育活動に取り組んでいる。             | 3.8 | ○管理職のリーダーシップ性がより発揮されと感じる今年度は、学校が目指そうとする方向性がより明確化され、どう本校の教育を進めていくべきか考えを出し合い、話し合える場が増えた。<br>○行事運営について、直前の提案でバタバタすることがみられたので、年間のミーティングのなかなどで提案すべきかのスケジュールを明確にして、グループの主任を中心に積極的に検討事項を発信していけるとよい。<br>○今年度、グーグルクラスルームを積極的に活用し、1学期途中から週2回のミーティングを1回にして、さらに朝のミーティングも廃止したことにより、授業研究に費やせる時間が増え、心にも余裕が生まれた。<br>○ミーティングの持ち方については、司会者の司会技術を高め、話し合いに広がりや深みをもたせるようにしていきたい。それが、子どもたち同士の話し合い活動で上級生のファシリテーション能力を向上させることにもつながると考え  |
|  | 15 校務分掌は適切に分担され、機能している。  | 3.0 |   |
|  | 16 学校運営の各分野における責任者が明確化され、その責任者を中心とした企画・提案が適切な時期にあり、全職員協力のもと実行されている。            | 2.7 |   |
|  | 17 ミーティングの頻度や方法は適切で、誰もが意見を言える雰囲気や機能している。                                       | 3.2 |   |
|  | 18 学校法人ガバナンス(健全な経営を目指す管理・統治体制)が適切に行われている。                                      | 3.3 |   |
| 安全管理   | 19 学校安全計画や防災・防犯指導計画が整備されており、職員は承知していつでも実践できるようにしている。                           | 3.5 | ○学校安全計画や防災・防犯指導計画、緊急時のマニュアル等、随時更新及び情報共有が行われ、教職員側の体制や動きについて把握しやすくなった。<br>○長年課題となっていた各棟の照度の低さについては、今年度、照明の増設が行われ、照度が改善された。<br>○安全点検はきちんと実施されているが、予算の関係で修繕が完全に行き届いていない箇所もある。校庭の土壌が痩せていることに対する対策や校庭の樹木の定期的な診断等が今後の課題と思われる。<br>○健康的な環境という点では、暑さ寒さ対策として、低学年棟のエアコン設置や故障が続くボイラーなども大きな課題である。<br>○重要書類の保管については、鍵はしっかりとかけられているが耐火金庫の増設が望まれる。<br>○毎日の登下校時の安全指導やバスの添乗によるバス指導については、今後も継続していきたい。   |
|  | 20 災害や学校事故等の緊急事態発生時の対応がマニュアルとしてまとめられており、職員はすぐ確認し、実践できるようになっている。                | 3.6 |   |
|  | 21 地震や火災、不審者侵入等に対する訓練が実施され、児童は対応の仕方を承知している。                                    | 3.0 |   |
|  | 22 安全点検が定期的に行われており、不備のある箇所はすぐに修繕や取替等が行われている。                                   | 3.3 |   |
|  | 23 校舎内外の環境が健康的で、安全に保たれている(空気、照度、電気、時計、トイレ、物置等)。                                | 3.1 |   |
|  | 24 重要諸帳簿、現金等の管理は鍵のかかった所に一定のルールのもとに保管されている。                                     | 3.8 |   |
|  | 25 個人情報に関わるデータ等は勝手に持ち出しができないように管理されている。  | 3.2 |   |
| 学習指導 / 学級指導  | 26 登下校時に関して、坂の下十字路の横断・飛び出し等に対する安全対策やバス運行時の車内の安全対策などが十分にされている。                  | 3.5 |   |
|  | 27 教科等の年間計画に基づき、テーマ学習と結びつけながら、学年で履修すべき内容をすべて指導している。                            | 3.8 | ○感染症対策を講じながら学びの継続を柱に、教科等の年間計画に基づき、テーマ学習と結びつけながら、学年で履修すべき内容をすべて指導できた。<br>○各学年の授業等については、他学年に配慮しながら時間設定を柔軟にとったり、学年内でサークルを作って話し合いをするなど、さらに工夫があってもよいと思われる。<br>○UDL(ユニバーサルデザインフォーラーニング)についても研修を重ねているとよい。<br>○学級経営については、学期ごとに丁寧に一人ひとりの成長や課題をとらえ、適切な目標設定の下に学級経営案を作成し、学校全体で検証できている。  |
|  | 28 個別指導やグループ別指導、習熟度別指導、児童の興味関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導方法の改善を図っている。    | 3.0 |   |
|  | 29 ノーチャイムを生かした柔軟な時間設定や可動式ホワイトボードを生かした場の設定など、最適な学習環境づくりに努めている。                  | 2.9 |   |
|  | 30 視聴覚教材の利用やICTの積極的活用によって、分かりやすい授業の工夫に努めている。                                   | 3.3 |   |
|  | 31 担任と教科担任と連絡を密にとり、効果的な指導を図っている。   | 3.1 |   |
|  | 32 外部人材を活用した授業についても積極的に実施している。   | 3.4 |   |
| 33 評価をするための評価規準を明確にし、客観的な評価資料を蓄積したうえで適切に見所や評定に結び付けている。                             | 2.9  |     |   |
| 児童指導 / 支援  | 34 児童の実態に応じた目標を定めて学級経営案を作成し、毎学期、目標の達成状況を検証している。                                | 3.8 |   |
|  | 35 本校のいじめ防止方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に全職員で取り組んでいる。                              | 3.7 | ○今年度より実施した、児童に対しての学期ごとの学校生活アンケートとその後の面談により、子どもの悩みや不安に早く気づき対応することができた。<br>○児童指導に関する問題は担任だけで抱えることなく、管理職にも随時報告され、必要に応じて職員全体で情報を共有し組織として対応することができた。<br>○児童が悩み事を聞いてもらったり、クールダウンしたりする場所として保健室が第二の居場所として機能している。<br>○定期的に巡回指導・相談をしてくださっている菅原先生と保護者の接点が増え、少し増えると家庭にとっても担任にとってもメリットがあるのではないかと考えられる。   |
|  | 36 学校生活に関するアンケートや児童・保護者との面談を通して、児童・保護者の悩みや心配等に寄り添う対応をしている。                     | 3.7 |   |
|  | 37 児童指導に関する報告は児童指導担当を通して管理職にも報告され、必要に応じて情報を全職員で共有し、保護者への連絡など適切に対応している。         | 3.7 |   |
| 38 児童が自ら考え、自主的・自律的に行動でき、その言動に責任を負うことができるよう、普段の授業や道徳に加え、あらゆる教育活動の場面で積極的な児童指導に努めている。 | 3.2  |     |   |
| 総合学習   | 39 児童が悩み事を聞いてもらったり、クールダウンしたりする場所として保健室が機能している。                                 | 3.6 |   |
|  | 40 スクールカウンセラーに定期的に児童の様子を観察してもらったうえで、児童の成長・発達に必要な助言等を職員及び保護者が受けている。             | 3.4 |   |
|  | 41 「希望」の年間計画に基づき、児童自らが課題を発見し解決に向けて取り組むための目標・内容を設定し、探究力、社会力、生活力を養う実践をしている。      | 3.1 |   |
| 42 「くらし」の年間計画に基づき、季節や地域文化、年中行事等に合わせた目標・内容を設定し、探究力、社会力、生活力を養う実践をしている。               | 3.3  |     |   |

|          |           |  |                                  |  |     |  |
|----------|-----------|--|----------------------------------|--|-----|--|
| その他の教育活動 | 43        | 「特別の教科道徳」においては、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てよう実践している。                                  | 3.0                              | ○「クラブ活動」は、児童の興味・関心に応じて適切なクラブ数や人数でその目的を達成することができた。転出によるクラブ人数の規定変更も児童自らの話し合いで解決することができた。<br>○児童会活動の活性化や選挙の方法等については、今年度を踏まえさらに検討していきたい。<br>○人権教育の充実に向けて、ワークショップや外部講師からの講話など、気づきを促す取組を増やしていきたい。<br>○学校農園(畑・田)は年間を通して適切に管理され、栽培・収穫等の体験活動を通して児童の学習に有効に生かされるとともに自然と自分たちの生活の関係について気付かせることができる。<br>○旅行的行事(修学旅行・遠足)は、その目的を児童自身が追求する中で学年(学校)としての行き先を決め、事前・当日・事後の学習を通して自分の学びたいことを自ら深めようとするところできている。<br>○清掃指導は、縦割りグループの高学年が清掃の仕方や分担、反省などの面でリーダーシップを発揮できるよう指導し、清掃活動を通して協働して学校に貢献する喜びを感じさせている。<br>○朝の集いの時間は、児童の意欲をかき立てるとともに落ち着いた1校時の授業に取り組めるような内容や指導法の工夫をしている。<br>○人権教育では、差別と偏見に気付かせるワークショップ等の他、日常のあらゆる教育活動の中で人権の視点をもって取り組んでいる。<br>○安全教育では学校安全計画に基づき、日常の予防行動の他、児童自身が危険を予知して回避行動をとったり、危険に直面したときに最善の対策が取れたりするよう意識と行動力の向上に努めている。<br>○キャリア教育では、児童の立てた目標とその成果に対して適正に評価し、児童が希望に向かって自らの力で進んでいけるよう常に励まし努力をたたえている。さらに、その経過をポートフォリオ(キャリア・パスポート)として保管し、自分で振り返り、自己の生き方を考えることができるようにしている。<br>○図書教育では、児童の興味・関心や学習に応じた図書を随時選書・配架し、学習計画の中に位置付けて積極的に活用している。<br>○外国語教育(外国語活動・外国語科)では、児童が外国語によるコミュニケーションを通して外国の言語や文化、考え方を理解しようとする態度を養うとともに、発達段階に応じて「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」の5領域の目標を達成している。<br>○情報教育では、コンピューターの基本的な操作の他、情報モラルや情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるための学習活動を行えるよう指導している。<br>○ICTを活用した授業を積極的に進めており、児童の柔軟な発想を引き出したり、理解を定着させたり、発表力を高めたりすることに効果的に結びついている。<br>○プログラミング教育では、論理的思考力や創造性、問題解決力等の育成を目的とし、既存の教科等の中で、プログラミングの体験を通してプログラミング的思考により課題解決しようとする授業を実施している。<br>○幼幼連携では、内田学園としての一貫した教育理念のもとに、幼稚園、初等学校それぞれの教育目標を実現するために有効な連携行事や幼児・児童による日々の交流、職員間の相互理解などを進めている。<br>○学習評価について、教科ごとに発達段階に応じた評価規程を設定し、学期末の観点別評価に反映するとともに、それをもとに指導と評価の一体化を意識し、指導方法の工夫・改善や指導力の向上に努めている。 |     |  |
|          | 44        | 「クラブ活動」は、児童の興味・関心に応じて適切なクラブ数や人数でその目的を達成している。   | 3.8                              |  |     |  |
|          | 45        | 「委員会活動」は、児童会運営上の必要に応じて適切な委員会数や人数でその目的を達成している。  | 3.4                              |  |     |  |
|          | 46        | 児童会活動において、役員の数や人数は適切で、公正・公平な運営のもとに人選が行われ、選ばれた役員を中心に児童自らが学校をよく良くしていくことを自ら深めようとしている。   | 2.9                              |  |     |  |
|          | 47        | 学校農園(畑・田)は年間を通して適切に管理され、栽培・収穫等の体験活動を通して児童の学習に有効に生かされるとともに自然と自分たちの生活の関係について気付かせることができる。   | 3.5                              |  |     |  |
|          | 48        | 旅行的行事(修学旅行・遠足)は、その目的を児童自身が追求する中で学年(学校)としての行き先を決め、事前・当日・事後の学習を通して自分の学びたいことを自ら深めようとするところできている。   | 3.5                              |  |     |  |
|          | 49        | 清掃指導は、縦割りグループの高学年が清掃の仕方や分担、反省などの面でリーダーシップを発揮できるよう指導し、清掃活動を通して協働して学校に貢献する喜びを感じさせている。  | 3.0                              |  |     |  |
|          | 50        | 朝の集いの時間は、児童の意欲をかき立てるとともに落ち着いた1校時の授業に取り組めるような内容や指導法の工夫をしている。  | 2.8                              |  |     |  |
|          | 51        | 人権教育では、差別と偏見に気付かせるワークショップ等の他、日常のあらゆる教育活動の中で人権の視点をもって取り組んでいる。   | 2.9                              |  |     |  |
|          | 52        | 安全教育では学校安全計画に基づき、日常の予防行動の他、児童自身が危険を予知して回避行動をとったり、危険に直面したときに最善の対策が取れたりするよう意識と行動力の向上に努めている。  | 3.1                              |  |     |  |
|          | 53        | キャリア教育では、児童の立てた目標とその成果に対して適正に評価し、児童が希望に向かって自らの力で進んでいけるよう常に励まし努力をたたえている。さらに、その経過をポートフォリオ(キャリア・パスポート)として保管し、自分で振り返り、自己の生き方を考えることができるようにしている。   | 2.1                              |  |     |  |
|          | 54        | 図書教育では、児童の興味・関心や学習に応じた図書を随時選書・配架し、学習計画の中に位置付けて積極的に活用している。  | 2.7                              |  |     |  |
|          | 55        | 外国語教育(外国語活動・外国語科)では、児童が外国語によるコミュニケーションを通して外国の言語や文化、考え方を理解しようとする態度を養うとともに、発達段階に応じて「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと(やり取り)」、「話すこと(発表)」、「書くこと」の5領域の目標を達成している。 | 2.9                              |  |     |  |
|          | 56        | 情報教育では、コンピューターの基本的な操作の他、情報モラルや情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるための学習活動を行えるよう指導している。   | 3.2                              |  |     |  |
|          | 57        | ICTを活用した授業を積極的に進めており、児童の柔軟な発想を引き出したり、理解を定着させたり、発表力を高めたりすることに効果的に結びついている。   | 3.1                              |  |     |  |
|          | 58        | プログラミング教育では、論理的思考力や創造性、問題解決力等の育成を目的とし、既存の教科等の中で、プログラミングの体験を通してプログラミング的思考により課題解決しようとする授業を実施している。  | 3.4                              |  |     |  |
|          | 59        | 幼幼連携では、内田学園としての一貫した教育理念のもとに、幼稚園、初等学校それぞれの教育目標を実現するために有効な連携行事や幼児・児童による日々の交流、職員間の相互理解などを進めている。   | 2.4                              |  |     |  |
|          | 60        | 学習評価について、教科ごとに発達段階に応じた評価規程を設定し、学期末の観点別評価に反映するとともに、それをもとに指導と評価の一体化を意識し、指導方法の工夫・改善や指導力の向上に努めている。   | 3.0                              |  |     |  |
|          | 保健管理/給食関係 | 61   | 学校保健計画に基づいて適切に健康診断や保健指導等が行われている。 |  | 3.5 | ○学校保健計画に基づいて適切に健康診断や保健指導等が行われており、けがや病気に対する対応も適切に行うことができた。<br>○健康観察については試行中のアプリの導入による家庭・学校双方の効率化が望まれる。<br>○新型コロナウイルスの感染症対策や陽性者が判明した時の対応なども迅速かつ適切に実施できた。<br>○給食に関する衛生管理やアレルギー対応等も適切に行われ、児童が育てた野菜の給食提供や姿をかえる大豆プロジェクト等で食育の推進も行うことができた。 |
|          |           | 62   | 学校で起きたけが等に対して、適切に対応し、再発防止に努めている。 |  | 3.5 |  |
| 63       |           | 日常における教室等の環境(換気・温度・照明・騒音)や飲料水等の水質などが定期的に点検され、適切に保持されている。   | 3.3                              |  |     |  |
| 64       |           | 家庭での毎日の健康観察が適切に行われ感染症対策として機能している。  | 2.9                              |  |     |  |
| 65       |           | 消毒や換気、ソーシャルディスタンス等感染症対策を入念に行うとともに、陽性者が出て感染拡大の危険性がある時の対応フローチャート等も整備されている。   | 3.6                              |  |     |  |
| 66       |           | 新型コロナウイルスに関する情報や対応が随時更新されて保護者にも連絡されており、陽性者や濃厚接触者が出た場合の対応や情報発信等も迅速である。  | 3.8                              |  |     |  |
| 67       |           | 学校医との連携を密にし、随時相談して助言を受ける体制が整っている。  | 3.4                              |  |     |  |
| 68       |           | 給食の運搬、配膳、片付け等に関して適切な衛生管理が行われている。   | 3.7                              |  |     |  |
| 69       |           | 給食の準備、喫食、片付け、歯磨き等の時間が適切に確保され、児童にとって昼食の時間が楽しい時間となるよう工夫している。   | 3.1                              |  |     |  |
| 70       |           | 児童が栽培した農作物を給食に提供する他、大豆の加工・調理などを通して適時食育を促進し、一方で児童の味覚の幅を広げたり、給食の残食を減らしたりなどの努力をしている。  | 3.8                              |  |     |  |
| 職員研修     | 71        | 学校の教育活動を進めいく中で、教職員の服務や現代的課題に対する指導力の向上、これからの学校教育の在り方等について、内部で外部講師を招いたり、外部に出向いたり、オンラインでの研修機会があったりと、教職員は積極的に自ら学ぶとともにそれを波及させる研修報告をしている。          | 3.1                              | ○校内において、教員がお互いの授業を参観し合い協議し合う時間が十分にできなかった。次年度は、自らの指導方法改善や授業力向上に生かすために気軽に参観し合う文化を作っていく。  |     |  |
|          | 72        | 校内において、教員がお互いの授業を参観し合い協議することを通して、自らの指導方法改善や授業力向上に生かすことができる。  | 2.3                              |  |     |  |
|          | 73        | 学園だより、学校だより、学年だよりの定期的な発行の他、ホームページでの情報発信などにより、学校の教育活動や児童の様子などが、保護者をはじめ一般の方々にも積極的に理解してもらえるように努めている。  | 3.6                              |  |     |  |
|          | 74        | 緊急に情報発信が必要な場合には、「安心でんしよぼと」を活用して、迅速に分かりやすい情報を発信している。  | 3.8                              |  |     |  |
| 情報発信     | 75        | 学校近隣の住民には、学校運営上の様々な面で迷惑が感じられないように配慮がなされ、良好な関係が築かれている。  | 3.3                              | ○学校・学年だより、ホームページ等で積極的に情報発信することができた。また、緊急時の連絡メールも迅速かつ適切に対応することにより、大きな混乱を回避することができた。   |     |  |
|          | 76        | 教育活動を進めていくうえで、地域に貢献したり、地域の方々にも授業を支援していただいたりする活動を行っている。   | 3.1                              |  |     |  |
|          | 77        | 休暇や遅刻・早退など取得しやすい雰囲気の中、職員が互いに助け合う体制がとれており、自分のワークライフバランスが保たれている。   | 3.1                              |  |     |  |
| 働き方      | 78        | 任されている業務量は無理のない範囲であり、超過勤務(目安:1か月45時間)が大幅に増えてしまうことはない。  | 2.5                              | ○少ない職員の数であること、ICTをはじめ新しい教育内容が増えていることなどから業務の肥大化はなかなか抑えることができず、多くの先生が遅くまで仕事をしたり休日に出勤したりしている状況で、働き方改革を加速させる必要がある。<br>○職員間のチームワークは大変良く、気遣いや思いやりが多々感じられ、仕事の環境としてはとても良い。   |     |  |
|          | 79        | 学校行事や総合学習の役割分担において、職員間の業務量に大きな差がなく、任せられた業務に対して前向きに取り組むことができる。  | 2.9                              |  |     |  |
|          | 80        | 肥大化している業務の削減や効率化について考え、実行している。   | 2.9                              |  |     |  |